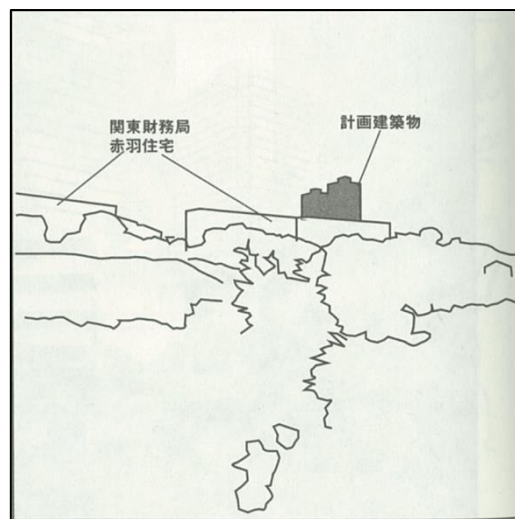




計画されていた超高層住棟の建設が無くなったことにより、眺望への影響の程度が低減される。

予測写真 3-11 赤羽自然観察公園内（地点 8）[変更後]



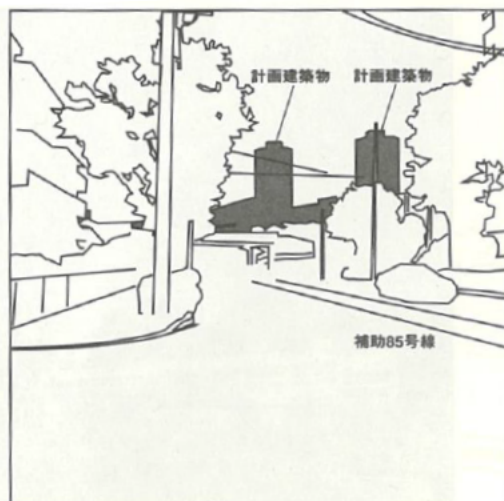
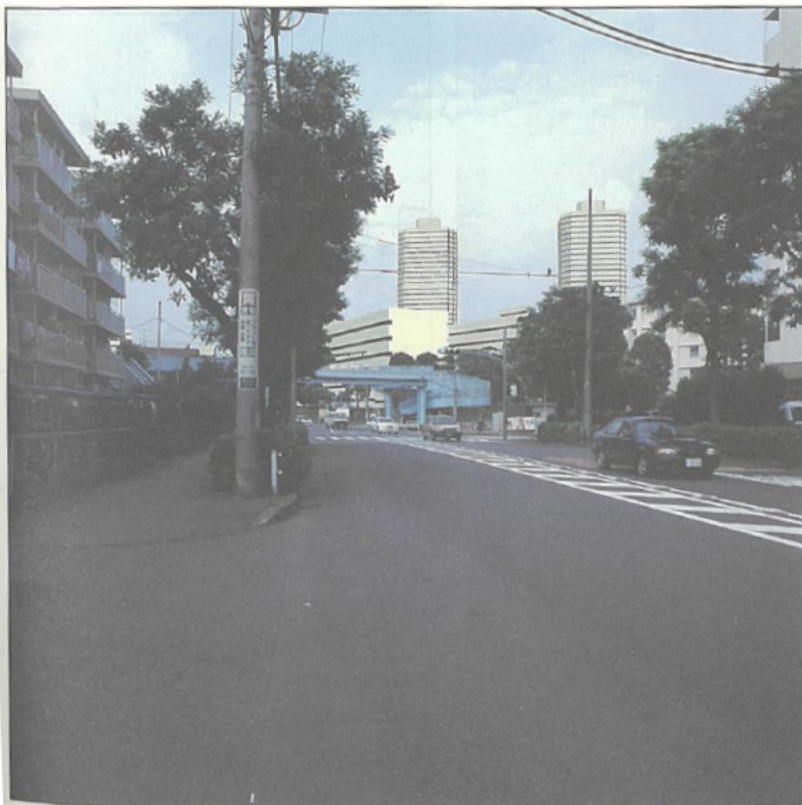
計画地に隣接する住宅団地の背後に超高層住棟の上部が眺望できる。
スカイラインに変化が生じるが、眺望の変化は小さい。

予測写真 3-12 赤羽自然観察公園内（地点 8）[変更前(H15.7 評価書)]



歩道橋背後に供用されている中層住棟が視認できるが、計画されていた超高層住棟の建設が無くなったことにより、眺望への影響の程度が低減される。

予測写真 3-13 補助 85 号線歩道上（地点 9）[変更後]



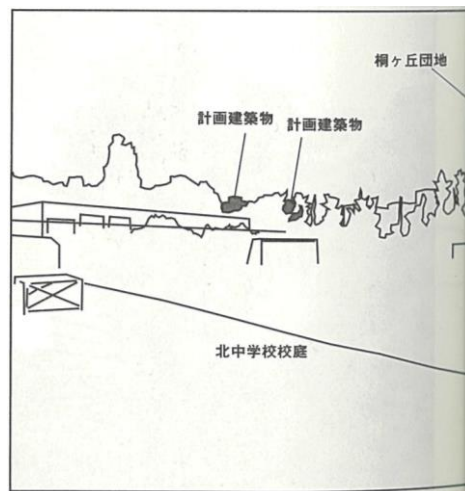
正面の歩道橋の背後に超高層住棟及び中高層住棟が眺望できる。
現況の給水塔の代わりに超高層住棟などの計画建築物により新たな都市的景観が創出される。

予測写真 3-14 補助 85 号線歩道上（地点 9）[変更前(H15.7 評価書)]



計画されていた超高層住棟の建設が無くなったことから眺望への影響が低減される。

予測写真 3-15 北中学校校庭（地点 10）[変更後]



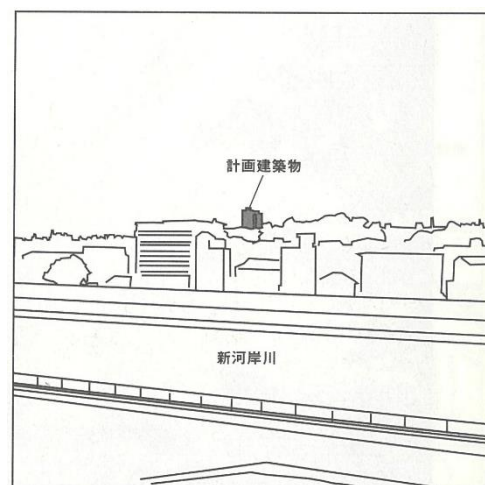
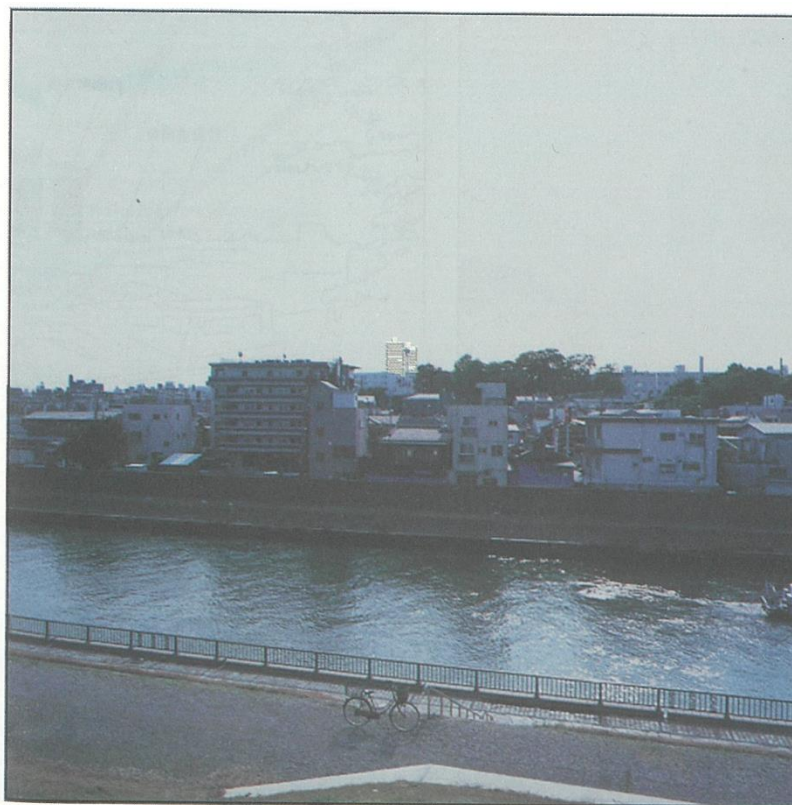
校庭の植栽越しに超高層住宅の上部がわずかに眺望できるが、眺望にほとんど変化はない。

予測写真 3-16 北中学校校庭（地点 10）[変更前(H15.7 評価書)]



計画されていた超高層住棟の建設が無くなったことから眺望への影響が低減される。

予測写真 3-17 荒川堤防上（地点 11）[変更後]



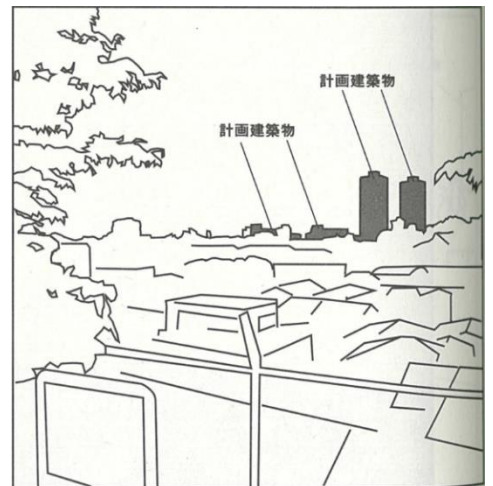
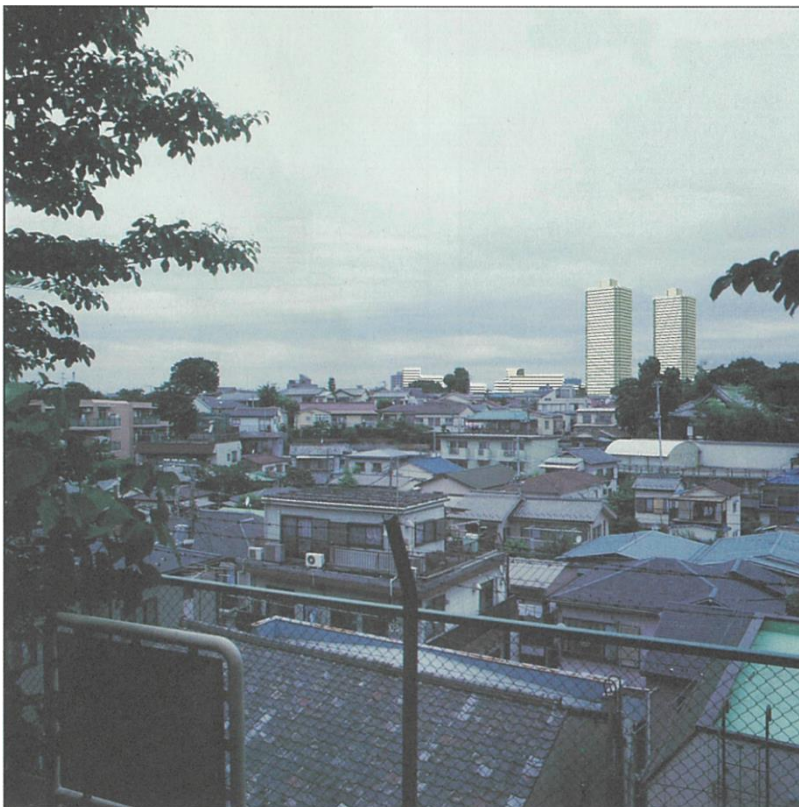
新河岸川沿いの住宅地の背後に超高層住棟の上部が眺望できる。
計画建築物は、周辺建築物に溶け込み、超高層住棟は地域のランドマークとして認識される。

予測写真 3-18 荒川堤防上（地点 11）[変更前(H15.7 評価書)]



計画されていた超高層住棟の建設が無くなったことから眺望への影響が低減される。

予測写真 3-19 稲付公園内（地点 12）[変更後]



台地上に超高層住棟及び中高層住棟が眺望できる。

超高層住棟の 2 棟によりスカイラインの変化と新たな都市的景観が創出される。

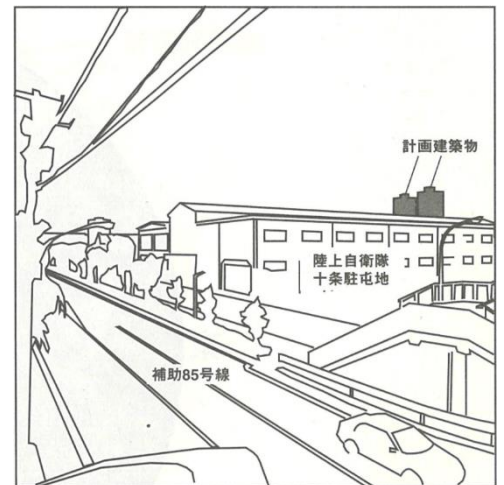
予測写真 3-20 稲付公園内（地点 12）[変更前(H15.7 評価書)]



計画されていた超高層住棟の建設が無くなったことから眺望への影響が低減される。

予測写真 3-21 西が丘競技場前横断歩道橋上（地点 13）〔変更後〕

注）現在は横断歩道橋が無くなっている。



補助 85 号線沿いの陸上自衛隊十条駐屯地の建物の背後に超高層住棟の上部が眺望できるが、前面の建物等により眺望の状況は現況とほとんど変わらない。

予測写真 3-22 西が丘競技場前横断歩道橋上（地点 13）〔変更前（H15.7 評価書）〕

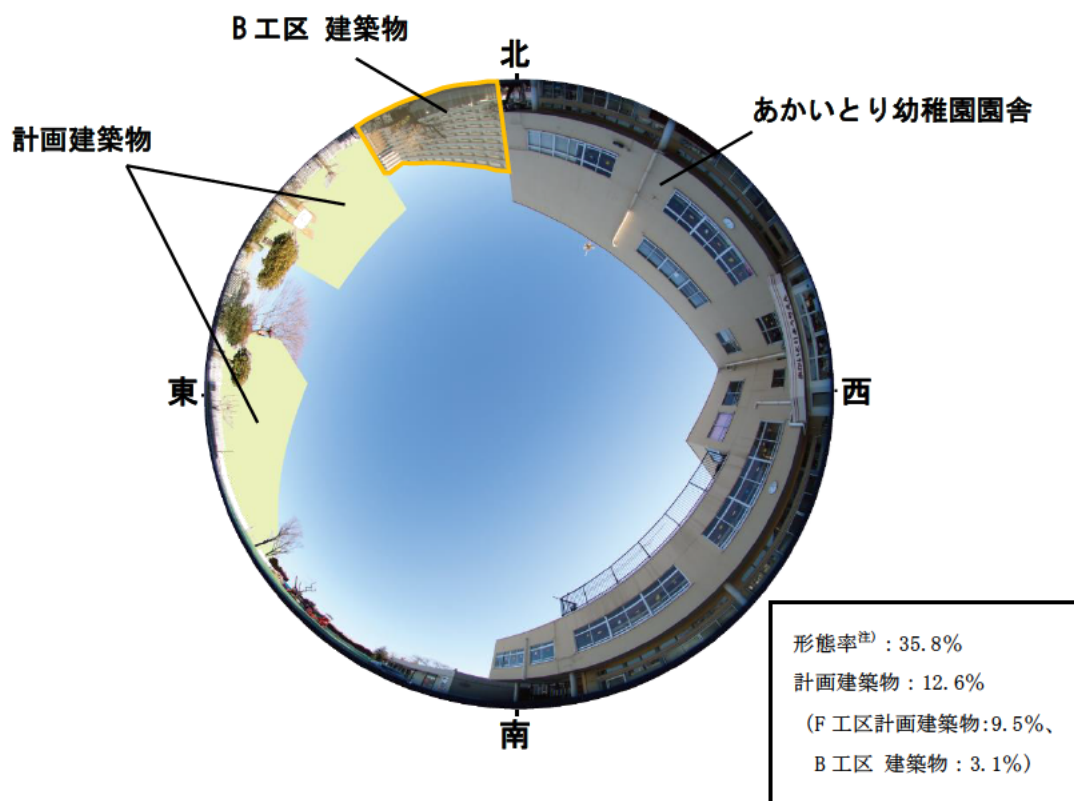
（３）圧迫感の変化の程度

代表的な眺望地点からの眺望の変化の程度は、予測条件である「建築物の位置、建築物の形状」に変更が生じたため、予測・評価の見直しを行った。

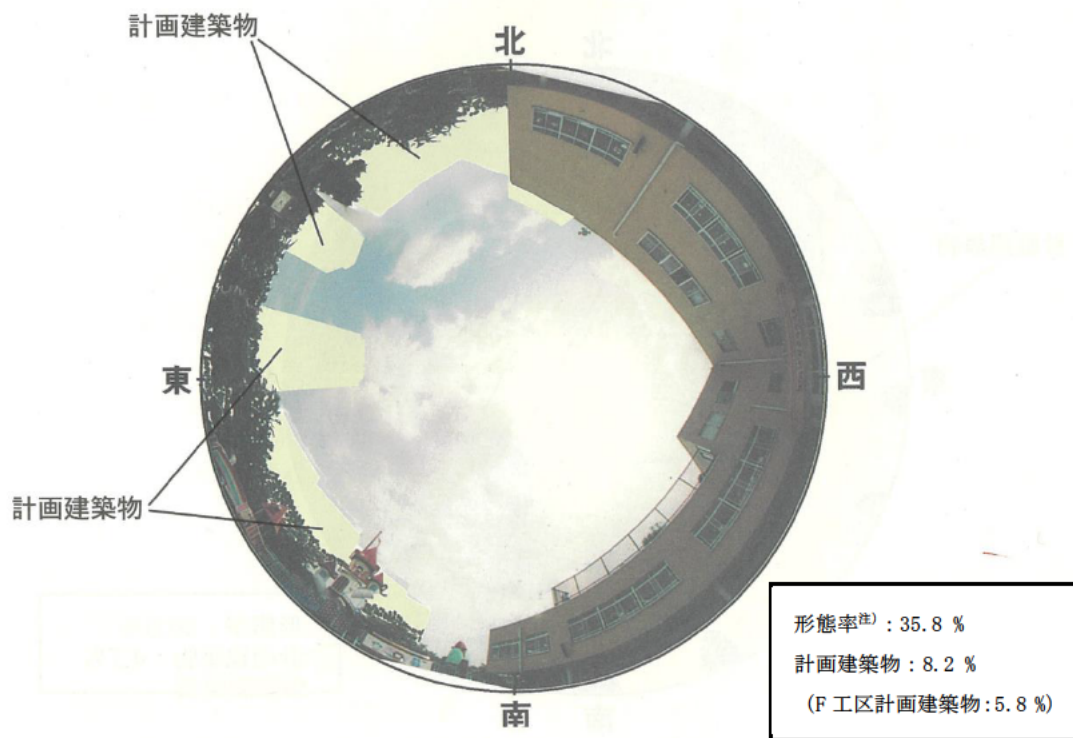
環境影響評価書（平成 15 年 7 月）では魚眼レンズで天空写真を撮影した際に写真内に占める対象建物の面積比を形態率とし、既存建物と計画建物について比較を行っている。そこで、今回の建築物の位置、建築物の形状の変更により、この予測結果がどのように変わるかを考察した。

予測は、今回の計画変更によって計画建築物が至近に建つ「あかいとり幼稚園園庭」にて行った。あかいとり幼稚園園庭における圧迫感の変化の程度は、予測写真 3-23～24 に示すとおりである。

あかいとり幼稚園園庭における形態率は約 35.8%であり、計画建築物の形態率は約 12.6%（うち F 工区計画建築物は約 9.5%）であった。環境影響評価書の予測結果と比較すると、計画建築物の形態率が約 4.4 ポイントと増加するが、「計画建築物のデザイン等に配慮し、新たに植栽等を施して、計画建築物による圧迫感を和らげるように努めることから、著しい変化はない」とする評価の結論は変わらない。



予測写真 3-23 あかいとり幼稚園園庭（地点D）〔変更後〕



予測写真 3-24 あかいとり幼稚園園庭（地点D）〔変更前(H15.7 評価書)〕

注) 形態率はあかいとり幼稚園園舎を示している。